

アラベツラ

Arabella

オペラパレス | 6 回公演 | 全3幕 〈ドイツ語上演／字幕付〉

初 演：1933年7月1日 ドレスデン・ザクセン国立歌劇場（ゼンパー・オーパー）

作 曲：リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss (1864-1949)

台 本：フーゴー・フォン・ホフマンスタール Hugo von Hofmannsthal

演目選定にあたって

新国立劇場が新芸術監督のもとシーズン開幕公演として上演するのは、指揮者としても名高く、数々の名作オペラを世に遺したりヒャルト・シュトラウス『アラベツラ』です。『ばらの騎士』や『サロメ』が一般的には有名ですが、この作品の素晴らしさは、主役から脇役に至るまで、音の中にきめ細やかに込められた心情描写にあるといえます。ウィーンを舞台に繰り広げられるこの恋愛物語は、音楽的に超絶技巧を要するため、歌手は演技、歌唱ともに高いテクニックを求められます。色彩豊かなオーケストラにも期待が高まります。

ウィーンで『アラベツラ』と言えば、必ず笑顔がこぼれる作品。どうぞご期待ください。

作品解説

リヒャルト・シュトラウスとホフマンスタールの名コンビによる最後の作品。1860年代のウィーンを舞台に繰り広げられるこの恋愛物語は、ストーリー、音楽ともに贅を尽くした名作です。

性格は全く異なるアラベツラとズデンカの美しい姉妹の恋心を中心にストーリーが展開します。姉のアラベツラは、没落したとはいえウィーンの貴族の娘として気位が高く、自分にふさわしい理想の男性の出現を夢見ます。一方、妹のズデンカは、家の経済的理由から男の子として育てられましたが、愛する男性には直情的に行動をおこす乙女心を胸に秘めています。リヒャルト・シュトラウスの官能的な音楽はこのコントラストを、実に雄弁に語っています。第1幕のモノローグ〈私のエレメル〉、第2幕の二重唱〈そしてあなたは主人になり〉など、優雅に香りつつウィーンの恋物語に、美しく冴え渡る音楽が随所にちりばめられています。

副題に“叙情的喜劇”と銘打たれたこの魅力的なオペラは、歌手に非常に高度なテクニックを要する等、さまざまな要因から日本国内での上演機会に恵まれませんでした。新国立劇場では1998年9月日本初の国内プロダクションとして上演（指揮：若杉弘、演出：鈴木敬介）。日本初演でもあった1988年バイエルン州立歌劇場（指揮：サヴァリッシュ）の来日公演以来、待望の上演となったこのプロダクションは、日本オペラの実力を示し、高く評価されました。今回の新制作は、新国立劇場オペラ『ホフマン物語』、『アンドレア・シェニエ』で幻想と現実を鮮やかに視覚化したフィリップ・アルローの演出です。指揮は、2003年の『フィガロの結婚』や『エレクトラ』でいずれも好評を博したウルフ・シルマー。衣裳は世界的ファッション・デザイナー森英恵が新国立劇場初登場となります。タイトルロールは、アラベツラ役で定評のあるミヒャエラ・カウネ。2009年11月『ヴォツェック』タイトルロールで好評を博したトーマス・ヨハネス・マイヤーのマンドリカ役での再登場など、歌手陣にもご期待ください。

あらすじ

19世紀末のウィーン。退役騎兵隊大尉のヴァルトナー伯爵は、現実をわきまえない贅沢暮らしに加え賭け事を好み、破産寸前である。伯爵には年頃の美しい2人の娘、長女のアラベツラと妹のズデンカがいたが、2人の娘を社交界にデビューさせるだけの経済力がなく、次女をズデンコという男名前呼び、男装させている。アラベツラは気品のある美女で、求婚者が後を絶たないが、長女を玉の輿に乗せ経済的窮状から脱却しようと目論む両親の望むような裕福な男は現われない。士官のマッテオも、熱烈に想いを寄せていたが完全なる片思いだった。このマッテオに恋心を抱く姉思いのズデンカは、マッテオのためにキューピット役を務めてしまう。そこへ裕福な大地主マンドリカが現われ、多額の結納金を持参して求婚する。アラベツラもマンドリカに一目惚れする。謝肉祭の最後の夜の舞踏会に現われたアラベツラにプロポーズするマンドリカ。マッテオは惹かれあう2人を前に絶望する。ズデンカは、愛するマッテオの傷を癒そうと、姉の部屋の鍵だと偽って自分の部屋の鍵を渡す。しかし、その現場をマンドリカが立ち聞きしアラベツラへの疑念にかられ、事態はあっという間に收拾不可能に。ズデンカは全て自分が仕組んだことだと告白する。誤解と秘密は解け、ズデンカはマッテオと、アラベツラはマンドリカと結ばれ、ハッピーエンドとなる。

R. シュトラウス

アラベツラ

Arabella / Richard Strauss

全3幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮……………	ウルフ・シルマー
Conductor	Ulf Schirmer
演出・美術・照明……………	フィリップ・アルロー
Production, Scenery, Lighting Design	Philippe Arlaud
衣裳……………	森 英恵
Costume Design	Mori Hanae
ヴァルトナー伯爵……………	妻屋秀和
Graf Waldner	Tsumaya Hidekazu
アデライデ……………	竹本節子
Adelaide	Takemoto Setsuko
アラベツラ……………	ミハエラ・カウネ
Arabella	Michaela Kaune
ズデンカ……………	アグネーテ・ムンク・ラスムッセン
Zdenka	Agnete Munk Rasmussen
マンドリカ……………	トーマス・ヨハネス・マイヤー
Mandryka	Thomas Johannes Mayer
マッテオ……………	オリヴァー・リングェルハーン
Matteo	Oliver Ringelhahn
エレメル伯爵……………	望月哲也
Graf Elemer	Mochizuki Tetsuya
ドミニク伯爵……………	萩原 潤
Graf Dominik	Hagiwara Jun
ラモラル伯爵……………	初鹿野 剛
Graf Lamoral	Hatsukano Takeshi
フィアッカミッリ……………	天羽明恵
Die Fiaker-Milli	Amou Akie
カルタ占い……………	与田朝子
Eine Kartenaufschlägerin	Yoda Asako
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.10/2 (土) 2:00 10/11 (月・祝) 2:00

10/5 (火) 3:00 10/14 (木) 6:00

10/8 (金) 6:00 10/17 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2010.6/5 (土)

アラベッツ

Arabella / Richard Strauss

指揮：ウルフ・シルマー

Conductor : Ulf Schirmer

ドイツのエッセンハウゼン生まれ。ハンブルク音楽大学でホルスト・シュタイン、クリストフ・フォン・ドホナーニ、ジェルジ・リゲティの各氏に師事。

ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭などで指揮。2009年8月より、ライプツィヒ歌劇場の音楽監督を務めている。

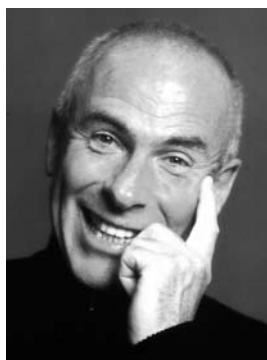
オペラのみならず、オペレッタ、映画音楽など幅広いレパートリーを持ち、世界各地の著名なオーケストラの指揮で活躍。ハンブルク演劇アカデミーで、音楽分析と音楽ドラマトルギーを教えている。新国立劇場には03年『フィガロの結婚』、04年『エレクトラ』、07年『西部の娘』に続き4度目の登場となる。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場といった世界の一流歌劇場や、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。新国立劇場では03年『ホフマン物語』演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。05年『アンドレア・シェニエ』に続く3作目の新演出。



衣裳：森 英恵

Costume Design : Mori Hanae

島根県出身。1950年から60年代にわたって多くの日本映画衣裳を担当。65年ニューヨークで初の海外コレクションを発表、77年からパリ・オートクチュール組合に属する唯一の東洋人として活動を展開した。オペラやバレエ、創作能、新作歌舞伎などの舞台衣裳も手がける。現在は「森英恵ファッション文化財団」を設立し、若手の育成にも力を注ぐ。朝日賞、紫綬褒章、東京都文化賞、文化勲章、レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、毎日ファッション大賞特別賞など。著書に「ファッション一蝶は国境をこえる」「HANAЕ MORI STYLE」など。東京女子大卒。新国立劇場初登場。



アラベッラ

Arabella / Richard Strauss

アラベッラ：ミヒャエラ・カウネ

Arabella : Michaela Kaune

ハンブルク生まれ。1997年よりベルリン・ドイツ・オペラに所属。ザクセン州立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バイロイト音楽祭などに出演。『カルメン』ミカエラ、『魔弾の射手』アガテ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、『アラベッラ』タイトルロール、『ルサルカ』タイトルロール、『ばらの騎士』元帥夫人などを歌っている。今後は、バイロイト音楽祭でエーファ、ベルリン・ドイツ・オペラで元帥夫人、『オテロ』デズデーモナなど、バイエルン州立歌劇場とウィーン国立歌劇場で『こうもり』ロザリンデ、ジュネーヴ歌劇場で『ワルキューレ』ジークリンデなどに出演予定。新国立劇場初登場。



ズデンカ：アグネーテ・ムンク・ラスムッセン

Zdenka : Agnete Munk Rasmussen

コペンハーゲン生まれ。同市の王立音楽アカデミーに学ぶ。これまでにザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパーの他、シュトゥットガルト、ライプツィヒなどに出演。『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッラ』ズデンカ、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『魔笛』夜の女王、『ラインの黄金』ヴォークリンデ、『こうもり』アデーレ、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどを歌っている。2009/2010シーズンは、デンマークのオーフスで『椿姫』ヴィオレッタのロールデビュー、デンマーク王立歌劇場で『魔笛』夜の女王を予定している。新国立劇場初登場。

マンドリカ：トーマス・ヨハネス・マイヤー

Mandryka : Thomas Johannes Mayer

ドイツ生まれ。ケルン音楽大学で声楽をリゼロッテ・ハンメスとクルト・モルに師事。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ブレゲンツ音楽祭などに出演。『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』と『ヴォツェック』のタイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『アラベッラ』マンドリカ、『サロメ』ヨハナン、『魔弾の射手』カスパールなどを歌っている。今後は、パリ・オペラ座『ワルキューレ』ヴォータン、2010年ザルツブルク音楽祭『ルル』猛獣使いなどを予定。09年に新国立劇場に『ヴォツェック』タイトルロールで登場、大好評を博す。



マッテオ：オリヴァー・リングェルハーン

Matteo : Oliver Ringelhahn

オーストリア生まれ。ウィーン音楽大学に学ぶ。これまでにザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場などに出演。『アラベッラ』マッテオ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『フィデリオ』ヤッキーノ、『こうもり』アルフレード、『ヴォツェック』アンドレス、『魔笛』モノスタトス、『ばらの騎士』ヴァルツァッキ、『ナクソス島のアリアドネ』舞踏教師などを歌っている。2010年にはネザーランド・オペラ『さまよえるオランダ人』舵手に出演予定。新国立劇場初登場。